

## 入選

田中 あかり(たなか あかり) 由木中央小 4年生

作品名:食べ物の大切さ

図書:秘密のスイーツ

「早く食べなさい。のこさないで食べなさい。」と私はいつもいわれています。今の時代、食べられない時はないし、これが最後の食事かもしれないと思って食べることはありません。

主人公の理沙は、男の子から「デブ」と言われ、女の子からもさけられて不登校になった子です。理沙はお菓子が大好きで、太っています。転校した学校でもはじめはなじめなかったけれど、神社ですわっているとき昭和十九年とつながっているタイムトンネルを見つけます。そこで、戦時中を生きている雪子と出会います。雪子の時代は食べ物がないので、理沙はポッキーやキャラメルをタイムトンネルに届けてあげました。かわりに、雪子がいつも食べている蒸しパンを食べてみると、金魚のえさのようにまずくてひと口ではき出してしまいました。転校した学校のバーベキューに行った理沙はごはんの炊き上がりがよくなかったからと、炊きたてのごはんを捨てようとしたとなりの班の子たちに「捨てるの、よくない。」と叫びます。それは雪子のことを思ったからです。信じられないほどまずいおやつを食べて、ものすごくおなかがすいている子がいるからです。

この事がきっかけで理沙には真由子と沢田君という友だちができました。ごはんを捨てるのはよくないという味方をしてくれたのです。昔は子どもがごはんを捨てると川に流された、という話も沢田君が教えてくれました。理沙が勇気を出して大声で言ったことで、真由子も沢田君も理沙の心のやさしさに気づいてくれたのだと思います。

その後、理沙は学校にも通えるようになります。しかし、中学生になったときにタイムトンネルがあった場所がこわされてしまいます。それきり、雪子と会うことはできなくなってしまいました。ある日、真由子の家に行くとふしぎなことが起こります。なんと雪子は真由子のおおばさんだったのです。二人は年がはなれてしまっていたけれど、いつまでも友だちでいたのです。

私はこの本を読んで「食べ物を大事にしよう」と思いました。でも今の時代は食べ物がふえていて、すべて大事にすることは、とてもむずかしいです。昔とちがって、作られる量も多いし、種類も多いので、食べきれないことがあるかもしれません。けれど、できるかぎり残さないように努力したいです。そしてもう一つ、私がごはんを食べられるのは、お父さん、お母さんが働いてくれているおかげです。だから、お父さんとお母さんと食べ物にかんしゃして食べようと思います。